

### 釈迦ヶ岳・釈迦像光背の再修理と倒木処理

◇実施日：2020年11月25日（水）曇り後小雨

◇参加者：山川治雄、梶野照雄、植平修

3名

24日朝に植平さんから電話があり昨日の状況を説明、25日に現状確認のため釈迦ヶ岳に行くことを伝えた。その後、植平さんも25日に参加していただけることになった。

朝8時半過ぎに登山口着、標高900m位は雲の中だった。気温はそれほど低くは無いが日差しは全く無く、風も少し吹いている。



森林作業用ハシゴ



千丈平通過



山川さんと別れる

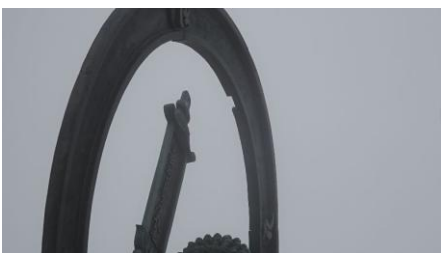
植平さんが持参してきたのは森林作業用の一本支柱のハシゴで、約1.5mの物を4本接続できるハシゴだ。そのうちの3本を持参されて背負子に括りつけてある。重量を計ってみると21kgもあった。3本を接続すると4.5mを少し超える長さになる。少し長すぎるのでは？との話になり、2本接続の3mあまりで十分届くと思われるので、植平さんが1本、私が1本を持ち山頂を目指した。奥駈道分岐の手前で倒木処理の山川さんと別れ、2人で山頂へ向かう。山川さんは下りながら倒木処理をして先に下山した。



山頂に到着



組み立てたハシゴ



ボルトは無くなっていた

山頂に到着、植平さんは勤行される。ハシゴを接続して釈迦像に立ててみると先端がちょうど頭部に届いて長さはピッタリだった。ハシゴの先端には滑り止めのゴムが付いているので、像を傷つける事も無く、下部の一ヶ所をスリングで固定するだけで済んだ。

植平さんは先日の工事で光背の接続部が良く判っているので、必要な工具を全て持参してくださった。真鍮のボルトも長さの異なる数

種類を用意されていて、大谷鑄造からのボルトと比べてみたが、まったく同じものがあつた。



作業中

修理完了

作業は順調に進み、登頂の抜け落ちたボルトと光背接続部のステンレスボルトを真鍮製のものに交換、新しいボルトに緩み止めを塗って梯子を外した。作業を始めてから霧雨が降り出し、時折白い霰の様なものも混じりだした。寒さのため作業途中で指先が冷え、一旦降りて風当たりがない石積の前で指先の感覚が戻るのを待った。予定の作業は終えたが、既設のボルトに緩みがないか確認しようということになり、再び梯子を架ける。植平さんが各部のボルトをドライバーで回して確認したが、光背の接続部や頭部と胴体を繋いでいるビスに緩みがあり、1〜2〜1〜4回転位の締め増しが必要だった。それぞれのビスを締めなおして作業完了。

先日の修理後に光背全体が少し振動していたが、今回は振動が認められない。先日より風は少し弱い、風の弱さを考慮しても振動

が無くなったことは重要だ。

各部を留めているビスが徐々に緩み、緩みが原因で光背が振動、振動が更にビスの緩みを加速して一番揺れ幅の大きい頭頂部のボルトが抜け落ちた。と考えるのが妥当かと思う。抜け落ちたボルトを探してみたが、先日と同じく見つけることはできなかった。

ハシゴを分解して工具類を収納、工事が完了しない場合はハシゴを山頂にデポする予定だったが持ち帰ることになった。頂上は風で寒いので千丈平に降りて昼食。途中の斜木はきれいに処理されていた。



切除された倒木

かくし水

跨がずに歩ける

昼食後下山開始。23日のネットの投稿で「草刈機を持った男性とカマを持った女性に会った」というのがあったが、まだ青刈り取られた笹が広がっている所があった。柴田、成田のお二人か？

跨がなければならなかった倒木も切除されて、大変歩きやすくなっている。植平さんは刈払機の先端にヘッジトリマーが付いた機具

を購入されて見せて頂いた。重量は少しあるが、刈り幅が広いので回転刃よりも効率が良いかもしれない。

↓12:51 古田の森 ↓14:11 登山口



新しい刈り跡



古田の森で



登山口着

2時間弱で登山口に戻り帰路についた。  
今回も植平さんに全面的にお世話になった。当初は現場の状況を確認して、再び修理に向かうつもりだったが、真鍮のボルトをすでに用意されていた植平さんの熱意で再々度の登頂が不要になった。  
1800mの山で冬季は必ず積雪がある。積迎像にもびつしりと着雪があるのが通常で、着雪の重さで光背が折れることも考えられたため、降雪の前に修理できたことは本当に良かったと思う。  
打合せの予定を変更してまで参加してくださった植平さんに感謝申し上げます。

(記：梶野)

## 行動タイム

08:45 登山口 → 11:06 釈迦ヶ岳 11:46 → 12:03 千丈平 12:22